

2018年4月 (No.346)

主な内容とページ

需要は堅調、18年度展望	1
多様化した日本の半導体市場	2
東芝メモリの今後	4
独り立ちへ一歩、ルネサス	5
デンソーの変身	7
インテル 対 TI 日本版	7
黒田電気は上場廃止	8
自動車離れ(SRL だより)	11

需要は堅調、18年度展望

新年度に入り、半導体の需要側、それに対する供給側、ともに明るい展望を描くことが出来そうだ。

1. 半導体の需要側では、従来からの柱の情報通信家電向けが下げ止まり。自動車、産業用機器では引き続き成長持続が期待できそう。
2. 供給側では、東芝メモリの売却の行方など見通しにくい要因があるが、ルネサスの株式売却、投資ファンドの活動増大など、流動化は高まり、産業の成長に刺激をもたらす。
3. 米中間の貿易摩擦の懸念など負の要因もあるが、今年度は安定確実な成長が見込めそうで、この環境を活かして、新たな成長戦略などに取り組む時期と言えそうだ。

自動車離れ

若者の自動車離れがいわれて久しい。理由はいろいろありそうだが、若者だけでなく、街中でも駐車場が使われていない景色が増えている感じを受ける。歴史的に車は、極限られた層が使う乗り物から誰でも運転できる便利な道具になって普及してきたのが、転機を迎えているのかもしれない。

車離れの要因の一つがスマートフォン(スマホ)。車はなくともスマホは必需品という人は多い。車もカーナビ、ドライブレコーダー、AV 機器など装備は充実。車自体が走るパソコンになるという人もいる。将来は車とスマホあるいはパソコンの一体化となるだろうが、それぞれ商品寿命の違いから、後付けとか組み合わせの利用か。

車メーカーにとってはやりにくい環境だろう。車自体は、5年10年単位で使われるが、スマホやパソコンは2-3年で新機種に切り替わる。もちろん車では5年、10年同じ装備を使っても良いが、新たな機種に対応できる仕組みは求められる。かつ価格が急速に低下する。チャンスは大きいですが、リスクもそれ以上になりそうだ。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2018年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

SRL Monthly Report

2018年4月(毎月1回発行)第29巻4号(通巻346号)

発行元:株式会社 SRL
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

April 2018, No.346

Semicon Research Ltd.
3-1-35 Shibakubocho Nishitokyo-City, Tokyo Japan
188-0014 Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2018

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)